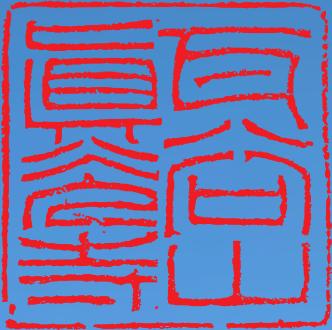
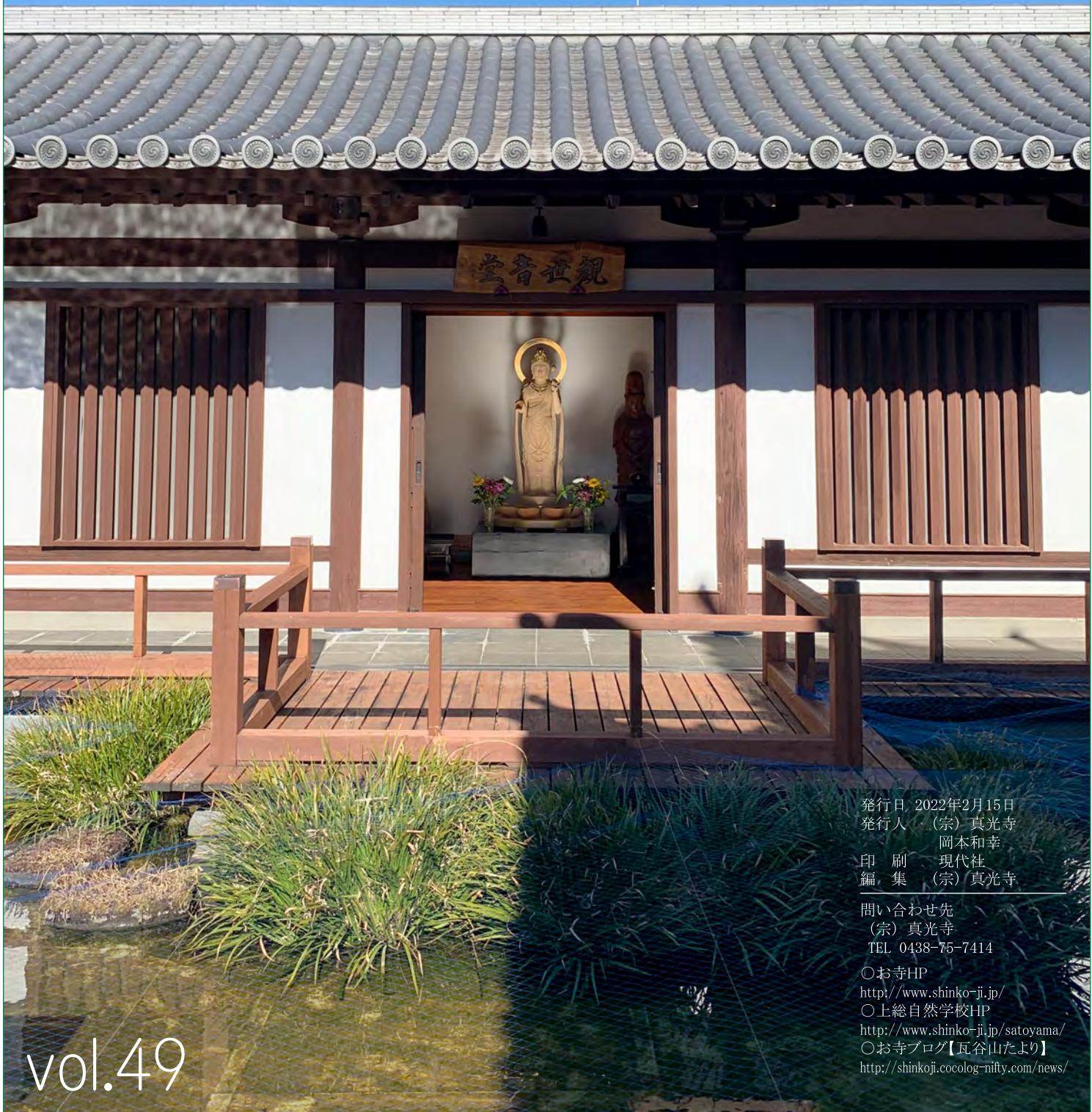


瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2022年2月15日
発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸

印 刷 現代社
編 集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山たより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.49

花の季節がやつてまいりました。年々華やかになる真光寺の桜の開花が楽しみです。アジサイロードもいつか石仏とのご縁を得て、野仏の路として皆様に親しんでいただけたらという夢を抱き、日々整備に励んでいます。真光寺の木はどんどん育つので、年々様相が変わります。今年はどのような景色が見られるでしょうか。

昨年の暮れに、新たに聖観世音菩薩様を観音堂へお迎えいたしました。当山新伽藍建設の際、私の師僧である真光寺の前住職谷本順應老師が観音像の造立を発願し、日展の審査員だった仏師の方に制作を依頼したのですが、粘土の原型までできたところで先方の都合により完全にストップしてしまいました。その代わりをおつとめくださった仏様が、埼玉のお寺の伽藍再建の際にご縁をいただいて拝請した、白衣觀音様でした。後日、谷本老師は改めて新潟の小林美照仏師に造像を依頼し、このたび無事入仏の運びとなつたのです。十二月吉日に新潟からお迎えした觀音様を観音堂に安置し、谷本老師と共に入仏開眼法要をお勤めいたしました。白衣觀音様は今後も脇侍としてお祀りし、御位牌をお護りいただきます。

既報の通り、樹木葬墓地では第四期の造成工事が進んでいます。当山境内地全域は平安時代の住居跡などの遺構がある「寺野台遺跡」に指定されており、大量の土器が出土しています。これが山号「瓦谷山」の由来です。その遺跡保護のために必要な客土を運び入れる作業がこのほど終了いたしました。

完成のあかつきには樹木葬墓地の面積は五千坪を超える、植樹した膨大な樹木の管理が大きな課題となります。当初墓苑の企画にあたっては、専門家から樹木の自然淘汰を促して森を育てようという提案を受けました。そこで第一期の墓地の最上部にいろいろな樹種を混ぜたモデル区画を作つてみましたが、膨大な苗と時間を費やす必要がある上に、ジャングルのようになつた区画は管理のしようもありません。せっかく植えた木が枯れていくのを見るのも忍びなく、途半ばで再考を余儀なくされました。そこで方針転換し全体計画を立てて植樹することにしましたが、手に入る苗の種類はどうしても限定され、さらに人の好む樹種はそのうちほんのわずかです。結果的に庭木を中心植樹することになりました。

樹木の成長は種別によって差があり、さらに土や日当たりなど環境の影響

もありますが、庭木のように剪定してしまえば、里山にかつてあつたような森に戻すという当山の樹木葬墓地のコンセプトを捨てる事にもなるので、昨秋より職員一同研修を受け、樹木の自然剪定を学んでいます。習得までには時間をおきますが、健全な森になることを夢見て努力していきたいと思っております。

樹木葬墓地の維持管理を行つていると、一本の木にこだわつてしまい、全体のバランスを見落とすことがあります。まさに「木を見て森を見ず」という言葉の通りです。木の成長には土が何よりも重要なので、「木ばかりを見て土を見ず」にならないよう自戒も必要です。以前自然学校で、林地の地面の十センチ四方の土を採取して、中の生き物を観察したことがあります。落ち葉が堆積した腐葉土の中からは、芋虫やコガネムシをはじめ、ゾウムシやハサミムシのような虫が大量に出てきました。落ち葉を分解して栄養豊富な土を生み出すこうした生き物こそが樹木を育む原動力となります。公園や庭は人間の管理下に置かれていますから、土の中に生育する生き物も自然のままというわけではありません。

樹木葬墓地の環境は、区画によつて千差万別です。日当たりのよい区画に日陰を好む木を植えてほしいとのご希望をうかがうこともあります。木の陰となる区画に日向を好む植物を植えてしまつますが、自然は正直ですから、環境に合わなければやがて枯れてしまいます。そうした問題を解決するため、区画内であつても木を切つたり新たに植えなければならぬのが、管理責任者たる私のつらいところです。契約の際には木の管理はお寺で行うという条項に同意をいただきながらも、これまで遡巡していく過程では、個々の木ばかりではなく森全体を見る感性を養つていかなればならないと、改めて思い直す次第です。何卒ご理解とご協力を願い申し上げます。

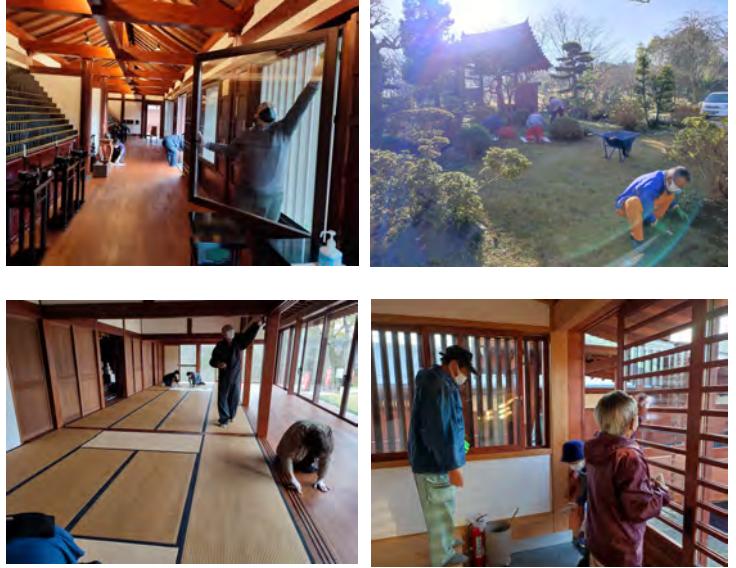
お彼岸に向け、暖かな春の陽ざしを浴び輝きを増した真光寺の森が皆様をお待ちしております。お誘い合わせの上、ぜひご参拝下さい。

◇年末大掃除

十二月七日及び十一日に山内の 大掃除を行いました。

七日は授戒式、月例法要後、午後からご参加の会員の皆様に、各御堂内の床や柱、梁等の拭き掃除をしていただきました。

十一日は近隣の檀信徒の皆様に、朝早くから境内の草取りや各御堂の窓拭き掃除をしていただきました。 昨年、薬師堂及び坐禅堂が完成し、御堂が増え、年内に大掃除が終わるかどうか懸念がありました。 皆様の多大なるご協力を賜り、何とかすべての御堂を綺麗にし、清々しく新年を迎えることが出来ました。ご参加くださいました皆様、誠にありがとうございました。



◇聖観世音菩薩入仏式

十二月二十一日、当山觀音堂に於いて、新しい聖

観世音菩薩像の入仏式が行われました。この御像は、真光寺の前住職であり、現在、川崎市川崎区大島にある西運庵の庵主を務められている谷本順應老師からご寄進賜り、仏師の小林美照氏が

約一年間かけて制作された、全長約百六十センチの立像で、すべて檜木で作られています。

右手は人々の願いをかなえてくれることを表す与願印、左手には仏心を宿しながらも、なかなかそれを開花させることは出来ない私たちの心を表す未開敷蓮華をもつていらっしゃいます。

インドのガンダーラ仏がモチーフとなっているため、一般的な日本の聖観世音菩薩像に比べ、若く凜々しい表情をされているのが特徴です。

法要では開眼の後、蜜湯・お菓子・お茶を丁重にお供えし、觀音経を唱え、回向しました。

一切衆生の心の声を聞いて、救いの手を差し伸べ、苦厄から救つて下さる聖観世音菩薩様。ご来山の際はぜひお参りください。



聖観世音菩薩開眼の瞬間



前任職谷本順應老師



仏師の小林美照氏

◇年頭祈祷・修正会

一月一日から三日まで年頭祈祷を、三日の午後からは修正会を修行しました。

年頭祈祷は昨年より三十分ごとに合同で厳修しております。今回は三日間で七十七件のお申し込みがあり、二十座のご祈祷を厳修しました。修正会は檀信徒三十名以上の方にご参集いただきました。皆様の家内安全、諸願成就を祈念しました。



大般若理趣分經を肩にあて、無病息災を祈ります



修正会の様子

令和四年 年回表		一 周 忌	令 和	三 年
百 回		三 回 忌	令 和	二 年
五 十 回	忌	平 成	二 年	年
三 十 七 回	忌	平 成	十 二	年
三 十 三 回	忌	平 成	八	年
二 十七 回	忌	平 成	八	年
二 十 三 回	忌	平 成	十 二	年
二 十 七 回	忌	平 成	八	年
三 十 七 回	忌	昭 和	六 十 一	年
三 十 八 回	忌	昭 和	四 十八	年
百 回	忌	昭 和	四 十八	年
大 正 十 二	年			

住職 岡本和幸



故郷、広島県三原市松寿寺全景(1960年頃)
小学生時代毎日掃除をしていた95段の石段

私は広島県三原市の松寿寺という寺の長男として生まれました。三原は坂の町として有名な竹原と、瀬戸の小京都として知られる尾道です。瀬戸内海に面した三万石ほどの小さな城下町です。戦国武将の小早川隆景が海と直結した「浮城」を築いたことから毛利・小早川水軍の本拠地となりました。高度成長期には新幹線の駅まで五分足らずの港から瀬戸の島々に多数の定期船が発着し、「瀬戸のインター・エンジニアリング」などと言われ

ましたが、その繁栄もしまなみ海道の開通で、すっかり過去のものとなっているようです。

松寿寺は、お城から東へ醉心という酒蔵などのある古い街並みを歩いたどん詰まりに位置する米田山の中腹にありました。九十五段の石段を昇った上にある広い境内と墓地、さらに背後の米田山は、当時の子どもたちにとつての別世界でした。中学生から幼稚園児までいつしょになって、境内では屋根にボールを投げ上げ、名前を呼ばれた人がキヤッчиする「やねむし」や、「肉弾」という遊びや、ビー玉遊び、夏になればゴム銃でセミを撃つたり、「ドードー採り」というセミの幼虫を捕まえる遊びや木登りに夢中になり、秋はアケビ探しでおやつをゲット、冬は山に秘密基地を作りました。当時はまだ五右衛門風呂を沸かす家も多く、薪を拾いに人が入っていたので米田山の山中はとてもきれいでしたが、私が中学を卒業する頃にはガス釜の普及に伴い薪は不要になり、山はどんどん荒れていきました。楽しい遊び場だった山が荒廃していく光景を目撃した経験が、私を里山再生やアジサイロード造成に駆り立てたのではないかと今になつて思います。

高校を卒業すると三原を離れ、東京・新宿の天



亡くなる直前の父と



学生時代を過した新宿の天龍寺

龍寺というお寺で得度を受け僧侶にしていただけ、住み込みの小僧として働きながら駒沢大学に通うことになりました。亡父は親友だった天龍寺の住職と、私が生まれた時に大学進学の際にはお世話をになる約束をしていたようです。寺育ちといえ父を亡くして何一つ知らなかつた私に、お読み方、お袈裟の着け方・畳み方など、僧侶の基礎を教えてくださつただけではなく、新日鉄で人事部長まで勤めた方だけあつて電話の応対や接客は特に厳しく、毎日のように怒鳴られながらも温かみの感じられるご指導をいただきました。江戸時代には駒込の吉祥寺や芝の青松寺に曹洞



大本山永平寺不老閣にて七十七世 貴主 丹羽廉芳(にわれんぽう)禪師と

宗僧侶が学ぶ梅檀林という大学のような機関が設けられました。それが近代に入つて駒沢大学へと発展したのですが、梅檀林の頃から地方出身の学僧は寮に入るか近隣の寺院に住み込み、そこで小僧を務めながら勉学に励みました。そんな経済的に苦しい者でも学ぶことができるシステムが受け継がれていたおかげで、私も大学へ進学できたのです。

天龍寺には概ね三人の学僧がいて、留守番と掃除が主な仕事です。お寺の庭には湧き水の池があり、渋谷川の源流として知られていました。私がお世話になつた時はちょうど伽藍の再建中で、庭は縮小され池も昔のものではなくなりましたが、代々の学僧が培つた庭掃除のノウハウだけは先輩から叩き込まれました。『和幸の庭掃除はたいし

たものだ』と住職から褒められた」と母が手紙を寄こしたこともありました。松寿寺の庭は雪舟の作と伝えられ、かつては三原三名園の一つとうたわれていました。その庭を見て育つたゆえに私自身にも思い入れがあったのかもしれないが、徹底的な庭掃除も、僧侶としての基礎になったものと思っています。

学業を終え上山した大本山永平寺では、雲水として修行生活を送る中で「なんとありがたい命を生きているのだ」と気づかされました。同時に仏教について何も知らないことに愕然としました。一から勉強をやり直そうと、当時駒澤大学内に開設されていた曹洞宗教化研修所への入所を決意したのですが、この研修所は大学院修士課程の二年分のカリキュラムを一年で行うという仕組みで、学費は免除される上に、曹洞宗から奨学金をもらうことができます。永平寺の修行も衣代などお金はかかります。祖母からもらった百万円を取り崩しながら、何とか生活していた私には最善の選択肢だと思いました。そして布教教化は私自身の大きなテーマでもありました。

血縁はありませんが、私の曾祖父に当たる岡本忍能は、大内青巒居士がはじめた曹洞扶宗会の広島県の代表的な活動家だったようです。曹洞扶宗会は明治維新、廢仏毀釈後の仏教の再生を目指して、全国の一般の人に布教の輪を広げ、今日曹洞宗でお唱えする「修証義」を編纂普及させた団体です。祖父の賢宗は師である忍能の意思を引き継ぎ、布教師として全国を巡回し、熱心に教化活動を行っていました。二人の布教教化への志を亡父も引き継ぎ、松寿寺に「万松会」という会を組織し、バトントワリング部、吹奏楽部、川柳部、茶道部、華道部など様々な活動を展開しています。県内の吳や尾道などにも支部を置き、会員は千人を超えていたそうです。花まつりには万松会だけでパ

レードができたらしく、市内を練り歩く写真などを残っています。



松寿寺本堂での舞踊会の様子

袖ヶ浦市郷土博物館顧問

井口 崇

黒潮の道—房総と熊野—（1）

—古来、紀州・熊野と房総の関係は深い。紀州の漁民は戦国時代～江戸時代頃になると果敢に他国に進出し、房総にもいくつもの漁法や醤油の醸造法を伝えた。

両地域には同一地名が多く分布している。また、中世の西上総には紀州・熊野社の莊園・畔蒜莊^{あびるのしょう}が存在した。

熊野神社の分布数も、千葉県は福島県に次いで全国2位の神社数を誇り、熊野三山信仰が浸透した地域であったことがわかる。—

今回から二回に分けて、紀州・熊野と房総の関係について、私の体験も交えつつ、海の道（黒潮の道）による地域間の交流について考えます。今回は紀州漁民の房総進出と、紀伊半島と房総半島の同一地名を探ります。

■私の中の房総と熊野

私は和歌山県の串本町で生まれ、高校までの少年期を過ごしました。そこは、紀伊半島の南端、本州の最南端である潮岬があるところです。望郷詩人とよばれた佐藤春夫は、故郷、南紀・熊野、つまり牟婁の地域（古代の紀伊国牟婁郡一帯）を「空青し 山青し 海青し」と『望郷五月歌』に詠みました。彼の言葉どおり、わが故郷はまさに、いくつもの青さに包み込まれているところ。そしてまた、そこは沈みゆく太陽が海と空にさまざまな夕焼けを残していく：そんな岬の地でもありました。

今は、紀伊半島にも高速道路が伸びつつあり、もうすぐ阪神方面から紀伊水道側を南下するルートと、名古屋・伊勢方面から熊野灘側を南下するルートが、串本あたりで繋がろうとしているのですが、半島の南端部はまさに最果て。昭和40年代に行われた国道42号線の拡幅とバイパス整備工事の時も、半島の南端部が最後になつたと記憶しています。紀勢本線が全線開通し



熊野古道図 (新宮市観光協会HPより)

あちこちを訪ね歩いた時には、「どこー（何処）から来た?」とか、「あんた、生まれば?」などと聞かれるのが常でしたので、「紀州、和歌山です。」と答えると、決まって、紀州と房総の関係性が深いこと、勝浦・白浜などの地名が同じであること、漁法や醤油の製法などは紀州から房総に伝わったのだと、地元の話はそつちのけで、まるで遠い故郷を思い出すかのように教えてくれた人が多くいました。それから早40年以上が過ぎようとしています。

私は仕事柄、袖ヶ浦や西上総地域、房総各地の歴史や文化については様々に知ることができたのですが、熊野と房総の関係を文化交流の歴史という視点でしつかりと捉える努力が足りなかつた気がしてします。それから、世間的には高齢者の仲間入りをする歳になつたことや、今般の新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって、国内の移動まで慎重にならざるを得ない状況になつてることもあり、これまで以上に生まれ育つた故郷、紀州・熊野への望郷の念を募らせています。今更ながらの感はありますが、紀州・熊野の郷土誌等を読むようになりました。コロナは私に「故郷を学びなさい」と言つてくれているのかもしれません。

■黒潮の道と旅網^{たびあみ}

黒潮はフィリピン東部から台湾、トカラ列島を横切り、南九州、四国、紀伊半島、東海地方から伊豆諸島、房総半島を経て東に流れ去る海流。幅は50～100km、最大時速は4ノットになるといいます。まさに青黒い川のようだと漁師から聞いたことがあります。この海の道を利用しての東西交流の歴史は縄文時代にまで遡ることができるのですが、ここでは近世以降の話にします。

私が袖ヶ浦に就職して、博物館づくりの仕事に携わった頃のことです。その頃は毎日のように、新しく道や地名を覚えたり、地域の古老から話を聞くなどしながら、私のフィールドとなつた袖ヶ浦を駆け巡っていました。「今度出来る博物館の仕事をしています。この地区の伝説や昔話などを教えてください」、「漁業や海の暮らしの道具を調べています」、「周りの畠などから土器や石器を見ついたことはありませんか?」などと、

私が袖ヶ浦に来てから間もない頃のこと、帰省した私に隣家の漁師が言いました。「千葉におるんか?木更津の近くらしいなあ。わしらは若い頃、カツオ釣りに出てな、千葉の勝浦には結構水揚げした。それからもつ

瓦谷山だより

と遠い：そう、気仙沼にもいったなあ。船で行つたら房総半島は直ぐや。」1980年代になつても、紀州・熊野の地は交通の便が悪く、陸路では長時間を要する辺境であり続けていましたが、黒潮に乗つて漁に出る漁民たちにとつて房総は遠い場所ではなかつたのです。漁民がより豊かな漁場を求めて地元を離れ、他地域域の海にかけて網漁をすることを「旅網」といいます。紀伊国では中世後期の資料に「旅網」の語が見られる。そこで、すでにその頃から他国の浦々へ出漁していたことがわかります。彼らはおそらく、戦国時代には水軍の水主などであつたでしようから、その卓越した航海技術と先進的な漁法を携えて、イワシやタイ、カツオなどを追つたのです。また、江戸時代の初めには、商品作物である木綿、蜜柑、藍などの肥料として「干鰯」の需要が高まつたこともあり、彼らは干鰯にするイワシを求めて、東は関東・東北の沿岸部にまで旅網に出ていました。もちろん、イワシを求めた旅網は紀州の漁師だけが行つたものではなく、和泉国、摂津国等の漁民も含まれていて、房総の各地にも彼らの痕跡が残っています。

江戸時代の初期の関西漁民の旅網出漁地は、まず、上総国夷隅郡川津村（勝浦市川津）、安房国長狭浜荻村（鴨川市浜荻）、下総国海上郡今宮村（銚子市今宮）、同高神村外川浦（銚子市外川）等が拠点として開発され、その後にそれらの周辺地域にも出漁していいたつたようです。これらの開発拠点では「まかせ網」や「八手網」によるイワシ漁が始められたのです。
まかせ網「江戸時代初期から使用されていたイワシ巻網。その規模は大きく、漁船6隻、漁夫80～90人を要するものもあつたといふ。八田網「主にイワシやアジを獲るために、大きな風呂敷を広げたような浮敷網。江戸時代から使用されたが、3隻の漁船が必要なため、明治中頃からあぐり網にとつて代わられた。網一帖には20～30人が必要とされた。」

初期の旅網は季節ごとに行われていましたが、次第に定住する者たちが現れました。中でも、紀伊国在田郡広村（和歌山県有田郡広川町）から銚子にやつてき

た崎山次郎右衛門は、1658年（万治1年）に外川に移住し、築港や碁盤目状の街区の整備を行つたといいます。その後、紀州から大勢の人を呼び寄せ、「外川千軒大繁盛」といわれるほどの賑わいある町へ発展させた人物でした。銚子は醤油の街としても知られていますが、その醤油づくりにも紀州出身者が関わっています。初代濱口儀兵衛が紀州から銚子に渡り、後のヤマサ醤油を創業したのは1645年（正保2年）のこと。この人物も崎山次郎右衛門と同じく広村の出身です。

■袖ヶ浦に残る旅網の記録

江戸時代には房総半島の東京湾沿岸地域（内房）においても旅網が行わっていたようで、館山市船形、富津市金谷、萩生、竹岡にも記録が残つてゐるほか、袖ヶ浦市奈良輪（高須）でも確認できます。

明和年間（1764～88）頃の成立とみられる奈良輪村の歴史を書き留めた「奈良輪実録」に次のようない記述があります。

| 地引網屋 慶安年中に大坂下福嶋より久右衛門と申す者下り地引網致し候、その子供に久右衛門・喜平次・半四郎と申兄弟三人下り、久右衛門は子供無し、喜平次子に喜平次と申す者、半四郎子に半三郎と申す者下り、地引致し段々不猶にて大無しに成り上り候、半三郎四十五六歳にて宝暦十二午年に上り候、今の小網屋海辺に大網屋御座候 |

奈良輪村では、慶安年中（1648～51）より摂津国の大坂下福嶋（現・大阪府大阪市福島区）の漁民がやつて来て地引網漁を行つてゐたが、次第に不漁になつたために宝暦2年（1762）に帰つてしまつたことがわかります。関西漁民が奈良輪村で、慶安から宝暦まで親・子・孫の三代にわたり約110年もの間出漁を続けていたのです。その後、江戸時代の後期には、地元の奈良輪村でも地引網が行われるようになりました。1843年（天保14年）の奈良輪村組頭長次郎の口上書には、奈良輪村では毎年6月から8月にかけて地引網を行い、アジが水揚げされていましたとあります。

■紀州と房総の地名

紀州（和歌山県）	伊豆（静岡県）	房総（千葉県）
海南市下津町加茂	賀茂郡南伊豆町加茂 下田市大加茂	南房総市加茂 鴨川市加茂川
湯浅町初島	熱海市初島	九十九里町須原（すはら）
湯浅町栖原（すはら）	下田市須原（すはら）	
由良町衣奈（えな）	賀茂郡松崎町江奈（えな）	
由良町網代（あじろ）	熱海市網代	夷隅郡御宿町網代
有田市古江見（こえみ）		鴨川市江見（えみ）
美浜町和田		旧安房郡和田町
御坊市野島		南房総市白浜町野島
田辺市目良（めら）	賀茂郡南伊豆町妻良（めら）	館山市布良（めら）
田辺市中辺路町岩船（いわぶね）		いすみ市岩船（いわぶね）
西牟婁郡白浜町	下田市白浜	旧安房郡白浜町
西牟婁郡田子（たこ）	賀茂郡西伊豆町田子	安房郡鋸南町下佐久間に東田子・西田子・田子台
東牟婁郡那智勝浦町		勝浦市
新宮市熊野川町 (旧九重(ここのえ)村)		館山市九重(ここのえ)
和歌山市神前（こうざき）		香取郡神崎（こうざき）町

次号では神々が籠る地、よみがえりの地などとも呼ばれ、古代以来修験者や比丘尼などによって全国に広まつた「熊野信仰」の姿から、紀州・熊野と房総の関係を探ります。

上総自然学校（里山再生活動）

真光寺田んぼ周辺の里山のナラ枯れ被害

瓦谷山だより

皆さんは「ナラ枯れ」という言葉を耳にしたことがありますでしょうか。これはナラ類やシイ・カシ類の樹体内に森林病害虫であるカシノナガキクイムシが病原菌であるナラ菌を増殖させ、水を吸い上げる機能を阻害して枯死へと導く樹木の伝染病のことです。千葉県内では四年前に鴨川で初めて症例が確認されました。が、南部地域の話だったのでさほど危機感を持ちませんでした。ところが、昨年の夏、イベントの準備のため、田んぼ周辺で作業中、ふと森の方へ目をやると木々の葉が青の濃さを一段と深めることで、この時期に茶色一色の木があるではありませんか。しかもよく見ると一本ではありません。周りにも、谷の向こうにも何本も確認できます。これはもしやと思い、その木の根元まで行つてみると案の定キクイムシが樹木に侵入する際に出すフ拉斯（木くず）がそこかしこから吹き出していました。



大量のフ拉斯にまみれたコナラ

イベントだより



上総伝統の鳥居型しめ縄

しめ縄とリース作り

考えることができます。むしろそれが遙か昔から続いてきた自然のサイクルと言えるのかもしれません。しかし、不特定多数の人々が活動する里山において枯れた木を放置しておくのは大変危険です。枯れた枝が落ちて当たれば痛いだけでは済まなくなります。「朽ちた木が増えるとカブトムシが増えるからむしろいい」などと呑気なことは言つていられません。そこで年明けから里山の雑木を間伐することにしました。真光寺では椎茸の栽培をしているので、虫害に遭つていらない木は椎茸の原本として活用する予定です。適切な管理を続けてこそ気持ちの良い里山を維持、活用できるということを改めて考えさせてくれるのもまた自然なていました。



雑木の間伐をする自然学校職員

このナラ枯れ被害はおよそ百年前からほぼ全国で確認されており、一時期減少傾向にありました。が、最近では増加の一途を辿っています。その最も大きな要因として考えられているのが、人の生活様式の変化による薪炭林の放置です。キクイムシがターゲットにする木のほとんどは手入れされずに高齢化・大径化したものばかりです。燃料供給地として必要とされなくなつた森は、キクイムシの繁殖しやすい場所へと変化していくのです。逆に考えれば、人間が木を切らなくなつたので昆虫が代わりに森を更新していると



手作りだと愛着もひとしお。

2022年度 自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております!

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| • 2月19日（土） 野鳥観察会 | • 5月28日（土） 水路の生き物観察会 |
| • 3月26日（土） お花見トレッキング | • 6月 4日（土）・11日（土） 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| • 4月 9日（土）・10日（日） 畦塗りと稻苗作り | • 7月 3日（日） イトトンボの観察会 |
| • 5月14日（土）・15日（日） 田植え | |

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校ファイールドの希少な生き物たち
第七回・ヒガシニホントカゲ

←
6. 離れる。1に戻る

詩人 大島 健夫

ここ房総半島で、地面を走り回っている四つ足の小さな爬虫類には、トカゲとカナヘビがあります。

この区別がどうも難しい、という声はよくお聞きするところですが、鱗の感じを見るとわりあい簡単にわかります。鱗がざらざらしていればカナヘビ、滑らかでつるつとしていたらトカゲです。千葉県を含む関東地方に生息しているトカゲは、「ヒガシニホントカゲ」という種類です。

ヒガシニホントカゲの幼体は、とても美しいものです。黒い体に金色の縦筋があり、尻尾は鮮やかな青のメタリック。まるで虹のような姿です。しかし成熟すると、雌はやや幼体時代の色彩を残すものの、雄は全身が茶褐色に変わってしまいます。

しかし、そんな雄が茶褐色以外の色を身にまとう季節が一年に一回だけあります。それは、冬眠から覚めた春先。3月後半から4月の繁殖期です。この時期、雄は喉や顔が血に染まつたように赤くなる「婚姻色」をまといい、そして、雄同士で激しく戦いあうのです。

この戦いは不思議なもので、文字にしてみると、ざつとこんなふうに進行します。

1. トカゲAとトカゲB、向かい合って睨み合う ←
2. トカゲA、自分の頭をトカゲBの前に差し出す。トカゲB、その頭にカブつと咬みつく ←
3. カブカブしたまま数秒間 ←
4. 離れる。今度はトカゲB、トカゲAの前に自分の頭を差し出す ←
5. トカゲA、トカゲBの頭に咬みつく ←



雄同士の戦い

さて、最初のカナヘビとの区別に話を戻すと、ヒガシニホントカゲは、カナヘビと比べて各地で減少率が高いようです。その原因は、トカゲがカナヘビに比べて、人間による環境改変の影響を受けやすいことがあります。

トカゲは、休息したり隠れたり、また採餌したりする上で、凹凸や小さな穴、植物などの隠れ場所の多い地面を必要とし、アスファルトで平らに均されたような場所では生活することができないのです。人工物であっても、例えは石垣などはトカゲの生息に適しているのですが、その石垣の隙間をセメントで塞がれたりするともうダメです。つまり、生態そのものが都市化に向いていないと

瓦谷山だより

高さ1974年千葉県生まれ。二〇一四年、二十四時間ワンマン朗読ライヴ完遂。詩の朗読の日本選手権・ボエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたボエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉県生物多様性センター勤務。環境省希少野生動植物種保存推進員。近著「外来生物のきもち」(マイツ出版)好評発売中。



ヒガシニホントカゲの幼体

いうことになります。加えて、トカゲはカナヘビよりも高いところに登る能力が低いため、生息域がブロックなどで分断されると移動できなくなってしまい、地域絶滅に至ってしまうのです。

そのようなわけで、ヒガシニホントカゲは、昔ながらの里山環境がある程度、残存している場所でしか見られない生き物になりつつあります。野生の生き物を保全するということには、単に保護生物に指定したり保護区を設定して終わりというのではダメで、個々の生き物の生息条件そのものを確保すること、そのためにはどういう環境を整備すべきなのかを真摯に考えることが、常に求められるのです。

ヒガシニホントカゲ
Plestiodon finitimus
有鱗目トカゲ科

千葉県レッドリスト・B（重要保護生物）

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。二〇一四年、二十

四時間ワンマン朗読ライヴ完遂。詩の朗読の日本選手権・ボエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたボエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉県生物多様性センター勤務。環境省希少野生動植物種保存推進員。

オンラインでのご法事はじめます

真光寺お堂でのご法事の他に「オンラインご法事」をご提案いたします。お寺で嘗む法要をライブ配信。ご自宅に居ながらパソコン・スマートフォン・タブレットで、「LINE」または「ZOOM」のアプリを使ってご供養にご参列頂けます。

※ご案内はEメールを用います。

1. お申し込み

通常のご法事と同様にお電話でご法事のご希望日時をお申し込みいただきます。その際「オンラインで」とお伝えください。



2. アプリの選択

オンラインご法事当日に使用するアプリをお選びいただきます。



LINE 手軽！(音が聞こえづらい場合があります。)

①「LINE」アプリをパソコン・スマートフォン・タブレット等にインストールします。

②友だち検索でID「shinkoji634」と入力、LINEで真光寺と友だちになります。

③ご法事開始時に真光寺からビデオ通話します。
ご法事のお時間は約30分程度を予定しております。

※LINEのビデオ通話はグループでもできます。
その場合、LINEグループを作成して、真光寺をそのグループに招待してください。
ご法事開始時に真光寺からビデオ通話します。

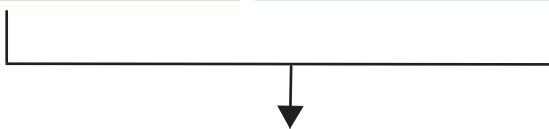


ZOOM おすすめ！

①「Zoom」アプリをパソコン・スマートフォン・タブレット等にインストールします。

②ご法事前日までに、当日のミーティングID、パスコードをEメールでお送りします。
お送り先のメールアドレス確認のため、「ennokai@shinko-ji.jp」へ故人様のお名前、施主様のお名前をご入力いただき、送信してください。
※通信テストが必要な方は、事前にテストを行いますのでお申し付けください。

③ご法事の開始時刻までにZoomにログインをお願いします。ご法事の様子をお送りします。お時間は約30分程度を予定しています。



3. お布施のご納金

指定口座へのお振込み、又は現金書留にてご都合の良いときにお納めください。

お振込み先：千葉信用金庫 平川支店 口座番号(普) 7523305

<オンライン法要にあたってのお願い>

- ・インターネット回線を使用しますので、通信環境を事前にご確認ください。
- ・パソコン、スマートフォン等の端末をご自身でご準備ください。
- ・複数回線をご希望の場合、代表者様より他の参加者へご案内をお願いします。
- ・法要中はカメラをオンにし、音声はミュートにしてご参加ください。
- ・真光寺では操作のご案内はできません。不明な方はご家族など詳しい方と一緒にご参加ください。

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。
また、各行事は新型コロナウイルス感染状況によっては中止する場合がございます。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月21日（月祝）14時より

春の彼岸法要を行い、ご先祖さまを供養致します。

花まつり檀信徒総会

《檀信徒》

日時：4月3日（日）11時より

お釈迦様の誕生をお祝いします。法要後に檀信徒総会を行います。

縁の会春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月21日（月祝）11時より

縁の会合同での春彼岸法要を行います。

昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。

欠席の場合でも御回向のみ、お塔婆のみのご供養もお受けいたしますのでお申し込み下さい。

※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月10日（木）午前11時より午後2時半頃

費用：3,000円（昼食付）

定員：10名

午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際に戒名を考えます。その戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂に安置します。

※要予約

※持ち物：漢和辞典

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

本年より再開を予定しておりましたが、2月現在の時勢を鑑み中止を延長しております。再開の目処が立ち次第下記の日程で行います。

3月 8日・22日 | 4月 12日・26日

5月 10日・24日 | 6月 14日・28日

7月 12日・26日

（時間の変更を検討中です。お電話でご確認下さい。）

精進料理と聖典講読の会

《どなたでも参加できます》

日時：3月24日（木）4月18日（月）

5月23日（月）6月20日（月）

7月25日（月）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付（精進料理）

住職による仏教解説の後、ご一緒に精進料理をいただき、午後は坐禅や写経をいたします。

※要予約



精進料理と聖典講読の会

七日法要

《縁の会会員》

日時：3月7日（月）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

4月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭

5月7日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

6月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

7月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は7月盆施食法要

※要予約

※午前、午後ののみの出席もできます。

8月11日（木祝）8月盆施食法要 午前の部11時より、午後の部13時半より修行致します。

7月・8月の詳細につきましては次号『瓦谷山だより』に掲載。

行 事 予 定

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座

《どなたでも参加できます》

日時：4月 4日（月）～ 5日（火）
6月 16日（木）～ 17日（金）
14時から翌日 13時30分解散

費用：8,000円 1泊3食

初心者の方も大歓迎！囲碁をはじめてみませんか？
日本棋院六段の先生に基盤から教わります。日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約

坐禅会 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日
15時～16時30分

初心者の方もお気軽にご参加ください。足が組めない方も椅子を使った坐禅で参加いただけます。休憩をはさんで2回坐禅を組みます。

※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しますので14時30分までにお越しください。

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

【平 日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT9時30分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

仏像彫刻体験教室

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日

13時30分～16時30分

費用：4,000円 / 1回参加

仏師の先生のご教導により、それぞれの方に応じたペースで仏像を彫っていきます。初めての方はご連絡ください。



薬師堂御本尊の両脇に、彫刻教室の生徒さんが心をこめて彫りあげた雲中供養菩薩をご奉納いただきました。

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時40分着

【平 日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時15分→袖ヶ浦BT12時17分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時40分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)